

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末2月23日の日足終値(NY時間午後5時)時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、
スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、
ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、
デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

■ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目前、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+/-2σラインをブレイクすること、

等々。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、上値も重いと読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)現在値が1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が $+2\sigma$ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<4時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 -2σ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

■ユーロドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる('エクスパンション'と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4 時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる('エクスパンション'と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、

2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

<<日足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回って以降、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、買い戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陽転し、終値が $+2\sigma$ ラインを上回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格上昇トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、

2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

■ポンドドル

<<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向である

ことが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、

上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 -2σ ラインにかけての価格帯

での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、

2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる('エクスパンション'と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる('エクスパンション'と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

■ユーロ円

<<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 -2σ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

<<日足>>

レンジ局面の上限である $+2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $+1\sigma$ ラインを下回ると改めてレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

<<4時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面だが、センター
ラインが下値サポートとなって反騰のシナリオもあり、今後、終値がセンター
ラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面に入る。

尚、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインの
ゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと判断する。

また、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての
価格帯は、一旦は押し目買いゾーンとなる。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

■豪ドル円

<<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向である
ことが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、
上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 -2σ ラインにかけての価格帯
での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目前、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 -2σ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる('エクスパンション'と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+/-2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

以上です。